

日中語における複雑述語の対照

—中国語「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的特徴—

A Contrastive Study of Complex Predicates in Japanese and Chinese:
Grammatical Properties of Verb-Verb Complex Predicates in Chinese

朱 茜
ZHU Qian

This paper examines on the linguistic differences between verb-verb complex predicates in Japanese and Chinese. In both languages, they can be categorized into three types: serial action complex predicates, auxiliary verb complex predicates, and purposive complex predicates. Analysis of the verb-verb complex predicates of the two languages showed the following: 1) All three types of Chinese complex predicates allow a noun phrase to be inserted between the two component verbs, while a noun phrase can be inserted only in serial action and in purposive types of Japanese complex predicates; 2) Particles can be placed between the two component verbs in serial action and auxiliary verb types of Chinese complex predicates, while all the three types of Japanese complex predicates allow particle insertion; 3) In negative sentences, the scope of negation is only the latter element of Chinese complex predicates, while either the whole complex predicates or the former element can be negated in Japanese complex predicates; 4) From the answers to interrogative sentences, the independence of the component verbs in Chinese complex predicates is stronger than that in Japanese.

キーワード： 「動詞＋動詞」型複雑述語，介入要素，否定のスコープ，独立性

Keywords: Verb-verb complex predicates, Insertion, Scope of negation, Independence

0. はじめに

現代日本語には「買いに行く」「買ってくる」のような構造を持つ複雑述語がある。

- (1) 私は本を買いに行く。
- (2) 彼は本を買ってくる。

現代日本語と同様に、現代中国語にも“去买”「買いに行く」「跑进」「走って入る」のような構造を持つ複雑述語がある。

(3) 他 去买 书。

(彼 行く－買う 本)

「彼は本を買いに行く」

(4) 我 跑进 教室。

(私 走る－入る 教室)

「私は教室に走って入る」

本稿では、日本語の「買いに行く」「買ってくる」や中国語の“去买”「買いに行く」「跑进」「走って入る」のような、二つの動詞が組み合わさって一つの述語として振る舞うものを「動詞＋動詞」型複雑述語（本稿の次節以下では「複雑述語」と略称する）と呼ぶ。

日本語と中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語はどちらも、二つの動詞が組み合わさって文中で一つのまとまりとして働く。本稿では、日本語における「動詞＋動詞」型複雑述語と対照することで、中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴を明らかにする。

1. 複雑述語に関する先行研究と問題点

本節では、複雑述語に関する先行研究を概観し、問題点を提出する。

岸本・由本 (2014: 1) では、「述語要素を二つ以上含みながら意味的には一つの述語として振る舞うもの」を複雑述語と呼ぶ。

また、岸本・由本 (2014) では、英語の複雑述語の分類を参照し、日本語の複雑述語を分類している。

日本語には、「軽動詞構文」「使役構文」「結果構文」「共動詞構文」「再構成を起こす不定詞構文」「複合動詞構文」「名詞編入構文」という7種類の複雑述語が存在している。

- (5) a. 学生は勉強した。（軽動詞構文）
- b. 母親は子供を寝させた。（使役構文）
- c. 彼はくたくたに疲れた。（結果構文）
- d. 子供が走っている。（共動詞構文）
- e. 図書館に本を借りに行く。（再構成を起こす不定詞構文）

- f. 電車を乗り換える。(複合動詞構文)
 g. あの人は腹黒い。(名詞編入構文)

(岸本・由本 2014: 3-4 例 (4))

(5) が示すように、岸本・由本 (2014) では、英語の複雑述語の分類を根拠として日本語の複雑述語を分類している。本稿では、岸本・由本 (2014) における「共動詞構文」と「再構成を起こす不定詞構文」、つまり、「走っている」「借りに行く」のように二つの動詞から組み合わされるもののみを「動詞+動詞」型複雑述語と呼ぶ。

寺村 (1990) では、アスペクトの面から補助動詞を説明している。「～テイル、～テアル、～テクレル」などの補助動詞は二次的アスペクト¹である。寺村 (1990) の観点から見ると、補助動詞型複雑述語は「本動詞+二次的アスペクト」という形式で構成される。

姫野 (1999)(2018) では、補助動詞と複合動詞は区別される。補助動詞では動詞の間に助詞の挿入が可能で、前の動詞の意味がそのまま保持され、前の動詞のみが否定形になることも可能であることが指摘される。さらに姫野 (1999)(2018) では、「否定形、受身形、使役形等への変容可能度は、統語構造における機能度を反映しているものであるから、補助動詞の類のほうが自由度が高い」と述べている。

荘司 (1997) では「V に行く」構文の補文構造に関する研究を行っている。荘司 (1997) では、以下の結論を得た。①「V に」と移動動詞の間にほかの語を挿入できる。② 連結構文での省略が可能である。③ 前の「V に」だけが尊敬表現になれることを指摘している。

上述の先行研究から見ると、日本語の複雑述語に関する先行研究が盛んであるが、中国語の複雑述語に関する先行研究はほとんど存在していない。また、今までの研究について主に日本語の複雑述語の一分類（補助動詞を持つ複雑述語、もしくは、「V に行く」構造を持つ複雑述語）に関する先行研究である。本稿では「動詞+動詞」型複雑述語全体を研究対象とし、「動詞+動詞」型複雑述語を再分類する。さらに日本語の「動詞+動詞」型複雑述語と対照しながら、中国語の「動詞+動詞」型複雑述語の文法的な特徴を考察する。

2. 日本語と中国語における「動詞+動詞」型複雑述語とその分類

日本語の動詞と動詞の繋がり²は、「動詞連用形+動詞」、「動詞連用形+に+動詞」、

¹ 寺村 (1990) では、アスペクトを3つに分けている。「日本語で、ある事象を過程の中に位置づけ、完了・未了、継続その他動的事象の諸相を表わす役目にするには、(i) 動詞の活用形、(ii) 動詞のテ形に後接する補助動詞の一部、および (iii) 動詞の連用形に後接する補助動詞の一部、ということになる。(i) をアスペクトの一次的形式、(ii) を二次的形式、(iii) を三次的形式とする。」(寺村 1990: 117)

² 大野他 (1977: 25) では、用言と用言が直接結び付くとき、助詞を用いずに連用形により直接的につづくか、接続助詞と用いて用言と用言との関係づけを表すことを指摘している。しかし、動詞と動詞が結び付くとき、接続助詞をもたず、助詞「に」を用いてつづく場合を存在している。

「動詞テ形+動詞」という3種類に分けられる。動詞連用形は直接的に動詞と繋がり一語として働き、この場合の「動詞連用形+動詞」は複合動詞である。それに対し、「動詞連用形+に+動詞」「動詞テ形+動詞」は一語ではない。しかし、これらの構造が文の述語になる場合、構造上・意味上では一つのまとまりと見なすことができる。本稿では、日本語における「動詞連用形+に+動詞」「動詞テ形+動詞」という構造を持つ述語を「動詞+動詞」型複雑述語と呼ぶ。

膠着語³の日本語と異なり、孤立語の中国語では、複合動詞と複雑述語はいずれも、動詞と動詞が直接的に連続し構成される。本稿では、二つの動詞が組み合わさって一語になるものを「動詞+動詞」型複合動詞と呼び、二つの動詞が結び付いて構造上・意味上では一つの述語として働くものを「動詞+動詞」型複雑述語と呼ぶ。

また、複雑述語の構造内部の文法関係・意味関係に着目し、日中語の複雑述語を大きく「連続動作型複雑述語」「補助動詞型複雑述語」「行為目的型複雑述語」⁴に分ける。

- (i) 「連続動作型複雑述語」：前項述語要素⁵と後項述語要素は両方とも本動詞であり、前の動詞と後ろの動詞は各々の意味を持ち、意味上・文法上に同等であり、二つの動作を順番に行うという意味を持つ複雑述語を指す。

(6) それらの本はすべて面白い。私は一度に3冊を買って読んだ。

(7) 彼は毎晩自宅に仕事を持って帰る。

(8) 这本书你只能借看一个时辰。

(この冊本君ただできる借りるー見る一個2時間)

「この本について、君は2時間だけ借りて読むことができる」(《倚天屠龙记》)

³ 言語類型論では、言語を屈折語(inflexional language)、膠着語(agglutinative language)、孤立語(isolating language)に分けている。本稿が研究対象とする日本語は膠着語であり、中国語は孤立語である。亀井他(1996:375)では、膠着語については「語幹にいろいろな接辞が接合して複合体を作るが、その接合は切れ目が比較的明白であり、その接辞は原則として1つの文法範疇を示す。このような形態特徴をもつ言語を、膠着語の類型の言語という」のように説明し、また、孤立語については「語は、文の中で他の語との関わり合いをもたず、まったく孤立している」のように説明している。

⁴ 本稿では、本動詞と補助動詞から構成される「補助動詞型複雑述語」は前項述語要素と後項述語要素の文法関係に着目し、二つの本動詞から構成される「連続動作型複雑述語」と「行為目的型複雑述語」は前項述語要素と後項述語要素の意味関係に着目して分類される。

⁵ 影山(1982:46)では、「複合語内で先に来る要素を前項、後に来る要素を後項と呼ぶ」と解釈している。本稿では、影山(1982)に従って、「動詞+動詞」型複雑述語の述語要素である前の動詞と後の動詞を「前項述語要素」と「後項述語要素」と呼ぶ。

(9) 他 訓哭 了 妹妹。

(彼 叱る－泣く 完了 妹)

「彼は妹を叱って泣かせた」

日本語と中国語には、他の連続動作型複雑述語の例もある。例えば、日本語の「焼いて食べる」「植えて育てる」「使って帰る」「坐って書く」「見て選ぶ」や中国語の“洗脏”「洗って汚れるになる」「切坏」「切って壊れる」「借用」「借りて使う」「哭倒」「泣いて倒させる」「剪碎」「ハサミで切ってばらばらになる」などである。

(ii) 「補助動詞型複雑述語」：前項述語要素は本動詞であり、後項述語要素は補助動詞⁶である。意味上では、本動詞は複雑述語意味を担当し、補助動詞は本動詞の意味を補足する。

(10) 彼は小説を読んでいる。

(11) 介助のコツを教えてもらう。

(『小児プライマリ・ケア虎の巻医学生・研修医実習のために』)

(12) 他 邮来 一封 信。

(彼 郵送する－来る 一通の手紙)

「彼は一通の手紙を郵送してくる」

(13) 他 给 母亲 汇去 一千元。

(彼 あげる 母 送金する－行く 千円)

「彼はお母さんに千円を送金していった」

日本語と中国語には、他の補助動詞型複雑述語の例もある。例えば、日本語の「話してくれる」「調べてみる」「読んであげる」「持っていく」「買ってくる」、中国語の“买来”「買ってくる」「送去」「送っていく」「跑出」「走って外に出る」「跳进」「中に入る」「买回」「買って帰ってくる」などがある。

⁶ 鈴木・林 (1981: 176) では、補助動詞は「本来のもつ実質的な意味が稀薄で、他の語の後に付いて付属的な意味を添えるもの」と指摘している。本稿では、鈴木・林 (1981) での補助動詞に従って、補助動詞型複雑述語を説明する。

(iii) 「行為目的型複雑述語」：前項述語要素と後項述語要素は両方とも本動詞である。意味上では、移動行為の目的を表す。

(14) 休日に遊びに行く。

(15) 彼は明日泳ぎに行く。

(16) 周末 我们 去旅行。
(週末 私たち 行く—旅行する)
「週末に私たちは旅行しに行く」

(17) 他 特地 来表达 敬意。
(彼 わざわざ 来る—表す 敬意)
「彼はわざわざ敬意を表しに来る」

日本語と中国語には、他の行為目的型複雑述語の例もある。例えば、日本語の「吸いに来る」「狩りに歩く」「買いに走る」「取りに帰る」「聞きに行く」、中国語の“去取”「取りに行く」「去办」「やりに行く」「来写」「書きに来る」「来吃」「食べに来る」「来看」「見に来る」などがある。

3. 中国語における「動詞+動詞」型複雑述語の文法的な特徴

本節では、日本語の複雑述語と対照し、前項述語要素と後項述語要素の間に介入する要素および前後述語要素の独立性に着目し、中国語の複雑述語の文法的な特徴を検討する。

3.1 複雑述語の内部に介入する要素

姫野 (1999)(2018) では、日本語で動詞と補助動詞の間に「は」のような助詞の介入⁷が許可されると指摘している。

(18) 補助動詞型複雑述語:

透析はたしかに生命を維持して—は—くれる。
(『腎臓移植・希望の選択 あるビジネスマンの闘病記録』)

⁷ 姫野 (1999)(2018) では、「助詞加入」という用語を用いて説明しているが、本稿では、前項述語要素と後項述語要素の間に要素を挿入することを「介入」と呼ぶ。

(19) 補助動詞型複雑述語:

実は僕自身、彼らにどう接したらいいのか、迷ってーもーいる。

(『おとなびあ』)

日本語の複雑述語において、補助動詞型複雑述語だけではなく、連続動作型複雑述語と行為目的型複雑述語の述語要素の間にも助詞の介入を許す。

(20) 連続動作型複雑述語:

食事時には病院に駆けつけ、お膳を運び、片付けてーはー帰る。

(『千代子さんの足跡』)

(21) 行為目的型複雑述語:

確かに映画を見にーはー行ったが、それは勤務時間外のことだ。

(荘司 1997: 49 例(33))

また、日本語の連続動作型複雑述語と行為目的型複雑述語において、前項述語要素と後項述語要素の間に名詞句を介入しても構文の意味が複雑述語構文の意味に似ているが、補助動詞型複雑述語の述語要素の間に名詞句を介入できない。

(22) 連続動作型複雑述語:

彼はそのかばんを持って帰った。→彼はそのかばんを持ってー家にー帰った。

(23) 行為目的型複雑述語:

お菓子を買いに行く。→お菓子を買いにーコンビニにー行く。

日本語の複雑述語の述語要素の間に助詞を介入できることは対照的に、中国語の複雑述語においては、連続動作型複雑述語と補助動詞型複雑述語のみ、述語要素の間に文法助詞⁸が介入できる。

⁸ 劉月華 (2011)、中国語学研究会 (1977) では、中国語の助詞は「時態助詞」「構造助詞」と「語気助詞」という3種類に大別される。時態助詞は、動詞の後ろに置いてアスペクトを示す。(本稿の例文 (28) の介入要素“着”は時態助詞の一つである。) 構造助詞は語の間に置いて語と語の構造上の関係を示す。(本稿では、例文 (27) の介入要素“得”は構造助詞の一つである。) 語気助詞は文末につけて語気や話し手の感情を示す。日本語の助詞と区別するために、本稿では、中国語学における助詞を「文法助詞」と呼ぶ。

(24) 連続動作型複雑述語：

衣服 洗掉 色 了。 → 衣服 洗—得—掉 色 了。
 (服 洗う—落ちる 色 完了) (服 洗う—文法助詞—落ちる 色 完了)
 「服は洗われて、色が落ちた」 「服は洗われて、色が落ちた」

(25) 補助動詞型複雑述語：

他 跑进 教室。 → 他 跑—着—进 教室。
 (彼 走る—入る 教室) (彼 走る—文法助詞—入る 教室)
 「彼は教室に走って入る」 「彼は走りながら教室に入る」

日本語における連続動作型複雑述語と行為目的型複雑述語の述語要素の間に名詞句を介入することとは対照的に、中国語の3種類の複雑述語の述語要素の間に名詞句を介入しても意味が似ている。

(26) 連続動作型複雑述語：

今天 我 请吃 饭。 → 今天 我 请—小王—吃 饭。
 (今日 私 誘う—食べる ご飯) (今日 私 誘う—王さん—食べる ご飯)
 「今日私は食事をご馳走する」 「今日私は王さんを誘って食事する」

(27) 補助動詞型複雑述語：

我 借给 他 一本书。 → 我 借—一本书—给 他。
 (私 貸す—あげる 彼 一冊の本) (私 貸す—一冊の本—あげる 彼)
 「私は彼に一冊の本を貸してあげる」 「私は一冊の本を彼に貸してあげる」

(28) 行為目的型複雑述語：

我 去买 书。 → 我 去—书店—买 书。
 (私 行く—買う 本) (私 行く—本屋—買う 本)
 「私は本を買いに行く」 「私は本屋へ行って本を買う」

日本語の3種類の複雑述語と対照し、中国語の複雑述語の述語要素の間の介入要素を表[1]のようにまとめる。

[表 1] 日本語と中国語における複雑述語内部の介入要素

		連続動作型	補助動詞型	行為目的型
日 本 語	助詞挿入	○	○	○
	名詞句挿入	○	×	○
中 国 語	文法助詞挿入	○	○	×
	名詞句挿入	○	○	○

(○は許可を示し、×は不許可を示す)

表[1]が示すように、日本語における3種類の複雑述語の述語要素の間に助詞が挿入でき、連続動作型複雑述語と行為目的型複雑述語のみに名詞句が介入できる。一方、中国語における3種類の複雑述語の述語要素の間に名詞句が介入でき、補助動詞型複雑述語と連続動作型複雑述語のみに文法助詞が介入できる。

3.2 中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語内部の独立性

本節では、複雑述語構造を持つ否定文と疑問文会話に着目し、日本語における複雑述語内部の述語要素の独立性と対照し、中国語における複雑述語の内部の述語要素の独立性を考察する。

3.2.1 否定文から見る「動詞＋動詞」型複雑述語内部の独立性

本節では、複雑述語構造を持つ否定文に着目し、複雑述語の述語要素の独立性を考察する。

日本語の複雑述語において、否定要素が複雑述語全体の後ろに置くことができる。

(29) 連続動作型複雑述語：

彼はお土産を持って帰らない。

(30) 補助動詞型複雑述語：

朝ご飯をまだ食べていない。

(31) 行為目的型複雑述語：

ケーキを取りに行かない。

日本語の複雑述語において、前項述語要素のみを否定することもできる。

(32) 連続動作型複雑述語：

ユン・ソクホ監督様とはデビューをさせていただいた縁の意味がカーソルーシナリオも見なくて決めました。

(33) 補助動詞型複雑述語：

日に多くて二、三本、吸わないときは三日も四日も吸わないでいる。

(『美雪総監と消えたクルーザー』)

(34) 行為目的型複雑述語：

その店は駅構内ですから、雨の日にも濡れずに行ける。

日本語において、例文 (29)～(31) のように否定要素「ない」を用いて複雑述語全体の後ろに置いて複雑述語を否定することがあるし、例文 (32) のように否定要素「なくて」を用いて連続動作型複雑述語「見て決める」の前項述語要素のみを否定し、例文 (33) のように否定要素「ないで」を用いて補助動詞型複雑述語「吸いている」の前項述語要素のみを否定し、例文 (34) のように否定要素「ずに」を用いて行為目的型複雑述語「濡れに行く」の前項述語要素のみを否定することもできる。

日本語に対し、中国語の複雑述語において、否定要素“没”「ない」は後項述語要素のみを否定する。

(35) 連続動作型複雑述語：

衣服 洗 了， 但 衣服上的污渍 没 洗掉。
(服 洗う 完了 しかし 服の汚れ NEG 洗うー落ちる)
「服を洗ったが、汚れが落ちなかった」

(36) 補助動詞型複雑述語：

我 爬 了， 但 没 爬上 山顶。
(私 登る 完了 しかし NEG 登るー上がる 山頂)
「私は登ったが、山頂に登らなかった」

(37) 行為目的型複雑述語：

我 没 去买 东西，我 去理发 了。
(私 NEG 行くー買う もの 私 行くー髪をカットする 完了)
「私は物を買に行っただけではなく、髪をカットしに行っただけ」

上述の例文から見ると、日本語において、否定要素は複雑述語全体を否定することができるし、前項述語要素のみを否定することもできるが、中国語において、否定要素は複雑述語の後項述語要素のみを否定することが分かった。

3.2.2 疑問文会話における「動詞＋動詞」型複雑述語内部の独立性

本節では、疑問文を含む会話に着目し、複雑述語の述語要素の独立性を考察する。

日本語では、複雑述語を含む疑問文に答えるとき、複雑述語における単一の述語要素だけを述語とすることができない。

(38) 連続動作型複雑述語：

Q: 今回、どんな本を買って読む？

A: ? 推理小説を買う。 / ? 推理小説を読む。 (推理小説を買って読む)

(39) 補助動詞型複雑述語：

Q: 誰が走っている？

A: ? 太郎が走る。 (太郎が走っている)

(40) 行為目的型複雑述語：

Q: 君は何を買いに行く？

A: ? 本を買う。 (本を買いに行く)

中国語では、複雑述語を含む疑問文に答えるとき、複雑述語における単一の述語要素を述語として答えることができる。

(41) 連続動作型複雑述語：

Q: 今天谁请吃饭啊? 「今日のご飯は誰がおごる?」

A: 小王请。「王さんがおごる」

(42) 連続動作型複雑述語：

Q: 你今天请吃什么? 「今日は何をご馳走する?」

A: 吃火锅吧。「鍋を食べよう」

中国語において、連続動作型複雑述語を含む疑問文に答えるとき、単一の前項述語要素

もしくは後項述語要素を用いて答えることができる。

また、中国語では、補助動詞型複雑述語を含む疑問文に答えるとき、複雑述語における単一の述語要素（前項述語要素もしくは後項述語要素）を述語として答える場合があるし、後項述語要素のみで答える場合もある。

(43) 補助動詞型複雑述語：

Q: 这是谁借给你的书啊? 「これは誰が君に貸してあげた本なのか?」

A: 小王借我的。「王さんが私に貸したのだ」

(44) 補助動詞型複雑述語：

Q: 这是借给谁的书啊? 「これは誰に貸してあげた本なのか?」

A: 给我的。「私にあげたのだ」

例文 (43) では、補助動詞型複雑述語“借给”「貸してあげる」の前項述語要素“借”「貸す」を用いて答えているが、例文 (44) では、補助動詞型複雑述語“借给”「貸してあげる」の後項述語要素“给”「あげる」を用いて答えている。

(45) 補助動詞型複雑述語：

Q: 他跑进哪间教室了? 「彼はどの教室に走って入った?」

A: 进左手第一间了。「左の一番目に入った」 (* 跑左手第一间了)

(46) 補助動詞型複雑述語：

Q: 这是写给谁的歌? 「この歌は誰に書いてあげたの?」

A: 给他妻子的。「彼の妻に（書いて）あげた」 (* 写他妻子的)

例文 (45)(46) では、疑問文に答えるとき、補助動詞型複雑述語“跑进”「走って入る」「写给」「書いてあげる」の後項述語要素“进”「入る」、「给」「あげる」のみが述語として答える。

行為目的型複雑述語の疑問文に答えるとき、後項述語要素のみで答えることができる。

(47) 行為目的型複雑述語：

Q: 你去买什么? 「何を買いに行く?」

A: 买书。「本を買う」

(48) 行為目的型複雑述語：

Q: 你们去看什么电影? 「君たちはどんな映画を見に行くか?」

A: 看“千与千寻”。「『千と千尋の神隠し』を見る」

上述の例文から見ると、複雑述語構造を持つ疑問文に答えるとき、日本語の複雑述語の単一の述語要素を用いて答えることが許されない。日本語に対し、中国語の複雑述語の単一の述語要素を用いて答えることが許される。

3.3 日中語における「動詞+動詞」型複雑述語の独立性の対照

3.1 節の複雑述語の述語要素の間に介入する要素、3.2 節の否定文と疑問文を含む会話に着目し日中語における3種類の「動詞+動詞」型複雑述語の独立性を分析した結果を踏まえ、日本語と中国語の複雑述語における述語要素の独立性を表[2]のように示す。

[表2] 日本語と中国語における複雑述語の述語要素の独立性

		日本語			中国語		
		連続動作型	補助動詞型	行為目的型	連続動作型	補助動詞型	行為目的型
介入要素	助詞	○	○	○	○	○	×
	名詞句	○	×	○	○	○	○
否定の スコープ		複雑述語 全体/前項	複雑述語 全体/前項	複雑述語 全体/前項	後項	後項	後項
単一 述語 要素 の 答え	前項	×	×	×	○	△	×
	後項	×	×	×	○	○	○

(○は許可を示し、△は許可の場合も不許可の場合もあることを示し、×は不許可を示す)

表[2]が示すように、日本語では、補助動詞型複雑述語のみが述語要素の間に名詞句の介入が許可されないため、補助動詞型複雑述語の独立性は連続動作型複雑述語と行為目的型複雑述語の独立性より低い。日本語と対照し、中国語では、行為目的型複雑述語のみが文

法助詞の介入が許可されないし、後項述語要素のみで疑問文に答える。つまり、中国語では、行為目的型複雑述語の独立性は一番低い。また、連続動作型複雑述語の前項述語要素と後項述語要素のどちらも述語として疑問文に答えることに対し、補助動詞型複雑述語の前項述語要素または後項述語要素で疑問文に答える場合があるし、後項述語要素のみで疑問文に答える場合もあるので、中国語では、「動詞＋動詞」型複雑述語の独立性の高低順番は連続動作型複雑述語＞補助動詞型複雑述語＞行為目的型複雑述語という順番である。

また、日本語と中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の独立性を比べてみると、日本語では、単一の述語要素を用いて疑問文に答えないので、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語における述語要素の独立性は日本語より高い。

4. まとめ

本稿では、日本語および中国語における「動詞＋動詞」型複雑述語を「連続動作型複雑述語」「補助動詞型複雑述語」「行為目的型複雑述語」の3種類に分けた。さらに日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴と対照することで、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語の文法的な特徴を検討した。結果として以下の結論を得た。

1. 中国語では複雑述語における述語要素の間に名詞句が介入でき、補助動詞型複雑述語と連続動作型複雑述語のみに助詞が介入できる。
2. 日本語では複雑述語の全体あるいは前項述語要素のみを否定しうるのに対し、中国語では複雑述語における後項述語要素のみを否定する。
3. 疑問文会話において、中国語の複雑述語における述語要素の独立性は日本語の複雑述語より高い。

さらに、中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語と日本語の「動詞＋動詞」型複雑述語の相違点を簡単にまとめると、日本語の補助動詞型複雑述語の述語要素の結び付きが一番強く、それに対し中国語の「動詞＋動詞」型複雑述語においては行為目的型複雑述語の述語要素の結び付きが一番強い。

略語

NEG 否定

参考文献

- 大野 晋・竹内 美智子・山口 明穂・北原 美紗子・西田 直敏・安田 章・田中 章夫 (1977)
『岩波講座 日本語 7 文法Ⅱ』岩波書店。

- 影山 太郎 (1982) 「日英語の語形成」斎藤倫明・石井正彦(編)『語構成』46-56, ひつじ書房.
- 亀井 孝・河野 六郎・千野 栄一 (1996) 『言語学大辞典 第6巻 術語編』三省堂.
- 岸本 秀樹・由本 陽子 (2014) 『複雑述語研究の現在』ひつじ書房.
- 鈴木 一彦・林 巨樹 (1981) 『品詞別 日本文法講座8 動詞』明治書院.
- 中国語学研究会 (1977) 『中国語学新辞典』光生館.
- 寺村 秀夫 (1990) 『日本語のシンタクスと意味 第II巻』くろしお出版.
- 姫野 昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ書房.
- 姫野 昌子 (2018) 『新版 複合動詞の構造と意味用法』研究社.
- 劉 月華 (2011) 《实用现代汉语语法》(『实用現代中国語文法』) 商务印书馆.